

## 関係の再構築をめざして

—夫婦の別れを親子の別れにしないために—

公益社団法人家庭問題情報センター 山口 美智子

明さんは、妻・恵子さんと離婚の方向で話し合い中です。長男・雄太君（五歳）の引き取りは難しいと周囲からも言われ、「自由な行き来ができれば恵子さんに任せるしかない」と思い始めています。

しかし、面会交流をどうするか話し合いがつきません。

明さんは、別居中、雄太君とあまり会えず、我慢を重ねてきたと感じています。その上、最後になって恵子さんから細かい条件をつけられ、決断できないでいます。

**カ**（カウンセラー） 今まで我慢されてきたのに、今度は、それまで以上に恵子さんから条件をつけられて納得いかない、そんなお気持ちなんですね。

**明** そうなんです。悔しいですよ。離婚そのものだってこちらの責任ばかり言われて、納得いかなかったのです。条件はかなり譲ったんですよ。

妻が「採めている間は無理」と言って、雄太とも一年余りで数回、それも短い時間しか会っていません。その上、決める段になつたら、回数とか時間とか細かいことを言い出して。子どもは私と会った時は本当にうれしそうなんです。もうすぐ六歳ですから、母親があれこれ注文しなければ、もっと、自由に会えるはずなんです。泊まることだってできるはずなのに。

私は父親なんです。本当は、半分は私のところで生活させてよいはず、その

くらいの権利はあるはずですよ。

**カ** このことで話し合っていると、また、離婚で採っていた時と同じようなやり取りになるのですか。

**明** そうなんです。離婚の話し合いの時に散々言われたことが思い出されて。

父親の私は子どもからひきはなされて、寂しい思いをしているのに。母親だからって一方的にそんなふうになってよいのですか。

**カ** 離婚そのものに、納得できない気持ちが残っておられるのでしょうか。

**明** ご夫婦の問題は踏ん切りをつけられたのではないのですか。折角、ここまで来られたのです。次に進めないのでしょうか。もちろん、先に進みたいと思っ

ても、彼女の主張が一方的すぎて。

**カ** おっしゃることもわかりませんが、気持ちの切り替えができませんか。

**明** それって、どういうことですか。

**カ** これまでの話し合いは、ご夫婦の問題の清算でしたね。

これからは、夫婦ではなく、雄太君の父母として、どう協力し合えるか、お互いの関係を再構築する道を探る段階に進んでいただきたいのです。

**明** それはわかりますが。でも、なんでそこまでしなくてはならないのかと思っ

てしまうのです。

**力** お気持ちはもつともな気がします。でも、もともと夫婦としてやっていけなくて離婚せざるをえなかったお二人です。そのお二人が、新しい協力関係をつくるのは容易ではありません。

雄太君のため、なんとか乗り越えられませんか。

**明** 新しい関係ですか。

**力** 明さんは、細かい注文をつけられて納得いかないで反発されていましたね。

ひよつとして、今も、夫婦で揉めていた時の気持ちを引きずっておられませんか。

**明** たしかに、私には、どうして私の立場をわからないのだ、わからせたいという気持ち強いかもしれません。そのため離婚になった面もあるのも事実です。そんな状況では、子どものことだけを自由にやりたい、やれるはずだと思う私の考えに無理があるということですか。

**力** 残念ながら、そうなんです。お二人は、夫婦としての関係を断念され、他人になることになったのです。でも、これからは、雄太君の成長という同じ目標を持った同志となっていたいただきたいのです。他人になった二人が、互いの大事なお子さんを託し合うことに

なるのですから、そのためのルールが必要ですよ。

**明** そういうことですか。

**力** 恵子さんの提案を、お二人の、父母としての今後の関係を作り上げるきっかけにしませんか。もちろん、納得いくよう話し合い、譲り合うところは譲り合う必要がありますが。

**明** 少しわかっただけです。彼女のいうルール作りの提案をうけて、話し合いを進めるのが大切だということですね。

**力** でも、できるでしょうか。難しいとは思いますが、頑張ってみられませんか。

**明** 明さんはお父さんとして雄太君のことを本当に大事に考えておられるじゃないですか。恵子さんにも通じますよ。もちろん、話し合いでは、雄太君の生活状況、スケジュールや体調も配慮していただきたいのですが。

**明** そうですね。

**力** 私は、自分ならこういう子育てをした、母親だけには勝手にさせたくないという思いや、母親の教育ぶりを監督したいという気持ちが強かった気がします。それでは子どもを混乱させるばかり、板挟みにするばかりですね。寂しい気もしますが……。

**力** 成長する力を信じてください。子どもさんは本当にたくましいですよ。

精一杯遊んで、楽しい経験させてあげることでお父さんの生き生きとした姿を見せてあげれば、子どもさんは安心します。回数や時間にこだわらず、ずっと見守ってあげることが大切ですね。

**明** 今までは、自分の寂しさや悔しさばかりにとらわれていたように思います。子どもを信じて見守っていきけるよう、そのためのルール作りを彼女と話し合ってみます。

難しかったら、また相談に来ます。

関係が悪化、別れることになった夫婦が、大切な子どものためとは言え、適切な関係を再構築するのは容易なことではありません。日本では、まだまだそのようなモデルが少ないのです。

夫婦の別れを親子の別れにしないように、父母も育っていく必要があります。

